JAPANESE HEART FAILURE SOCIETY

日本心不全学会

News Letter

Vol. 13, No. 4, 2009

発行：2010年1月10日
日本心不全学会
Japanese Heart Failure Society
hrrp://www.jhfs.gr.jp/

CONTENTS

1 第13回　日本心不全学会学術集会報告
3 第14回　日本心不全学会学術集会案内
5 第74回　日本循環器学会学術集会案内
7 〈心不全研究最前線(1)〉　第13回日本心不全学会 YIA 最優秀賞ー臨床系
8 〈心不全研究最前線(2)〉　第13回日本心不全学会 YIA 最優秀賞ー基礎系
10 日本心不全学会看護小委員会企画教育セミナー案内
12 学会カレンダー・日本心不全学会入会のご案内

○名誉会員
大江　透　笠貫　宏　北畠　顕　木全心一　篠山重威　白土邦男　竹越　襄
外山淳治　菱田　仁　松尾裕英　松田　暉　矢崎義雄　山口　巌　吉川純一

○特別会員
遠藤政夫　加納達二　神原啓文　菊池健次郎　北浦　泰　児玉和久　齋藤宗靖
菅原基晃　富田籌夫　中野　趄　土師一夫　平岡昌和　松村忠史　丸山幸夫
望月正武　矢野捷介　横田充弘　渡部秀人

日本心不全学会組織

○ 理事長
和泉　徹

○ 理　事
相澤義房　磯部光章　井上　博　今泉　勉　小川　聡　許　俊鋭　倉林正彦
小室一成　澤　芳樹　下川宏明　砂川賢二　筒井裕之　鄭　忠和　土居義典
友池仁暢　永井良三　藤原久義　堀　正二　松﨑益徳　百村伸一　森本紳一郎
横山光宏

○ 監　事
北風政史　藤田正俊

○ 評議員
相澤義房　青沼和隆　麻野井英次　東　純一　安達　仁　新井昌史　井内和幸
池田宇一　池田久雄　池田安宏　石川利之　石川義弘　石田良雄　石橋　豊
和泉　徹　磯部光章　礒山正玄　一色高明　伊藤一輔　伊藤隆之　伊藤　宏
伊藤正明　井野秀一　井上　博　猪又孝元　今泉　勉　岩坂壽二　岩瀬三紀
岩永善高　上嶋健治　上田清悟　上松正朗　浮村　聡　臼田和生　内野和顕
上床博久　梅村　敏　大内尉義　大木　崇　大草知子　大久保信司　大津欣也
大塚知明　大手信之　大西勝也　大野　実　大森浩二　大柳光正　岡本　洋
小川　聡　小川久雄　荻野和秀　小野幸彦　甲斐久史　加賀谷豊　柿木滋夫
梶谷定志　加藤法喜　加藤雅彦　金政　健　川合宏哉　川口秀明　川嶋成乃亮
川名正敏　河野　了　木島祥行　岸本千晴　北　徹　北風政史　絹川真太郎
木原康樹　木村一雄　木村玄次郎　許　俊鋭　楠岡英雄　久保田徹　倉林正彦
上月正博　河野雅和　児玉逸雄　小玉　誠　後藤葉一　小西　孝　小林直彦
小林洋一　駒村和雄　小室一成　是恒之宏　犀川哲典　斎藤能彦　酒井　俊
朔啓二郎　佐古田剛　佐々木達哉　佐藤直樹　佐藤　洋　佐藤　衛　佐藤幸人
澤　芳樹　塩井哲雄　塩島一朗　重松裕二　柴　信行　島田和幸　島田俊夫
島本和明　下川宏明　鈴木淳一　鈴木　誠　砂川賢二　住吉徹哉　清野精彦
世古義規　曽根孝仁　代田浩之　高島成二　高田重男　高田　淳　鷹津久登
鷹津良樹　高橋利之　高橋正明　宝田　明　瀧原圭子　武田信彬　武智　茂
竹村元三　嶽山陽一　太崎博美　田中啓治　田中　昌　田邉晃久　谷口郁夫
田内　潤　玉木長良　近森大志郎　辻野　健　蔦本尚慶　筒井裕之　鄭　忠和
手取屋岳夫　寺岡邦彦　寺崎文生　土居義典　友池仁暢　豊岡照彦　永井良三
中里祐二　永田正毅　中谷　敏　中谷武嗣　中村元行　中村由紀夫　並木　温
南都伸介　西尾亮介　西垣和彦　錦見俊雄　西村恒彦　西山信一郎　庭野慎一
布田伸一　野崎士郎　能澤　孝　野出孝一　野々木宏　野原隆司　野村憲和
橋本哲男　長谷川浩二　長谷部直幸　塙　晴雄　羽野卓三　濱田希臣　林　哲也
林　秀晴　原　裕二　久留一郎　平光伸也　平山篤志　廣岡良隆　廣瀬邦彦
福田恵一　福並正剛　福山尚哉　藤井　聡　藤田正俊　藤野　陽　藤原久義
星田四朗　堀　正二　堀井泰浩　堀江　稔　堀川良史　本田　喬　本田俊弘
前原和平　牧野直樹　増山　理　松井　忍　松浦秀夫　松岡博昭　松崎益徳
松田直樹　松本万夫　松森　昭　三浦伸一郎　三浦哲嗣　三浦俊郎　三嶋正芳
水重克文　三田村秀雄　光藤和明　湊口信也　南沢　享　南野哲男　宮内　卓
宮武邦夫　宗像一雄　室原豊明　毛利正博　百村伸一　盛岡茂文　森下竜一
森本紳一郎　森本達也　矢崎善一　安村良男　柳澤輝行　矢野雅文　山岸正和
山口清司　山科　章　山田　聡　山本一博　山本啓二　横山光宏　吉川　勉
吉栖正生　吉田　章　吉村道博　米持英俊　李　鍾大　和田厚幸　渡辺佐知郎
渡辺重行　渡辺　淳

（50 音順、敬称略）

賛助会員一覧（平成 22 年 1 月 10 日現在）

あ
アストラゼネカ株式会社
エーザイ株式会社
大塚製薬株式会社

さ
塩野義製薬株式会社

た
第一三共株式会社
大正富山医薬品株式会社
大日本住友製薬株式会社
武田薬品工業株式会社
田辺三菱製薬株式会社
帝人ファーマ株式会社

な
日本化薬株式会社
日本ベーリンガー
インゲルハイム株式会社
日本メジフィジックス
株式会社

は
バイエル薬品株式会社
万有製薬株式会社
ファイザー株式会社
フクダ電子株式会社

学会報告

第13回日本心不全学会学術集会報告

第13回日本心不全学会学術集会
会長　今泉　勉
（久留米大学医学部心臓・血管内科）

平成21年10月30日から11月１日の３日間、福岡国際会議場にて開催いたしました第13回日本心不全学会学術集会を成功裏に終了することが出来ました。多くの関係各位の方々にご支援、ご協力いただき誠に有り難うございました。心から御礼申し上げます。おかげ様で、今回は医師の参加者数771名、コメディカル366名、来賓やその他をあわせますと約1200名の方々にご参加いただきました。

今学会ではメインテーマを「皆で支える心不全治療」とし、近年の高齢化社会において、生命予後を伸ばすより生活の質をいかに確保するかを課題にしました。その意味では循環器専門医師のみならず、むしろ市中病院の医師、看護師、リハビリ士、栄養士、薬剤師などと一緒に治療に当たることを意識してプログラムを作成しました。特に今回は特別企画として３日間にわたり医師・コメディカル合同シンポジウムを編成し、初日の「慢性心不全の運動療法」から最終日の「慢性心不全の再入院をどう防ぐか」まで、リハビリ士、看護師、心理士や栄養士など多方面の方々が一緒になって活発な討論を交わされました。特に、全国からコメディカルの参加があった事に今回のテーマを理解して頂いたものと、有り難く感じております。

シンポジウムは事前に九州近隣の先生からテーマを募集し、10課題51演題を企画しました。どの会場も多くの参加者が聴講しており、皆様のアイデアとテーマに支えられて盛会となったことは良かったと感じています。また教育講演についてもガイドライン解説を取り上げ、地元の医師会から多くの先生がつめかけられ、実地の先生方には大好評であったようです。

特別講演は海外からトップクラスの先生を５名お招きしましたが、来日直前にHelmut Drexler先生が急逝され誠に遺憾でありました。しかし、来日頂いた４名の先生からは先端の研究に関する話題を提供して頂き、非常に興味深い内容であったと思います。特にHarrison先生の講演は印象的でした。YIAは例年どおり、基礎部門と臨床部門に分けて、各々最優秀賞１名と優秀賞２名を表彰しました。一般演題は151題で、全てポスター発表とし、今回は最優秀ポスター賞を医師部門とコメディ

学会受付

ポスター会場

カル部門に分けてそれぞれ表彰しました。その他、合同開催のICD・CRT合同研修セミナーや心臓移植研究会も盛会でした。

今回の学術集会を振り返り、受付や懇親会場がわかりづらい、会場までの導線が長いなど、参加者の皆様にはご迷惑をおかけしましたが、会場はワンフロアーにまとまり一体感が伝わったのではないかと思います。最後になりましたが、今回の学術集会が、心不全診療に携わる様々な関係の方々の交流の場となり、その一旦を担えた事は光栄に思います。今後、本学会活動が益々発展してゆく事を心から祈っております。

シンポジウム会場

Kirk先生親子を囲んで

学会案内

第14回日本心不全学会学術集会ご案内

第14回日本心不全学会学術集会
会長　磯部光章
(東京医科歯科大学大学院循環制御内科)

第14回心不全学会学術集会を2010年10月7日（木）～9日（土）の3日間、京王プラザホテル（東京都新宿）にて開催いたします。伝統ある本学会を主催させていただくことを大変光栄に存じており、重い責任を感じております。

学術集会のテーマを“社会に貢献する心不全診療・Management of Heart Failure for the Public”といたしました。近年の高齢化現象と符合して心不全患者数はますます増加しています。しかし多くの患者さんは長く症状がないまま経過します。心不全の予備軍を感知し、早期に予防的治療を開始することは、患者さんのQOLの向上に最も重要かつ喫緊の社会的課題です。一方心不全の診療は基礎医学や臨床研究さらに大規模臨床試験に支えられてめざましく進歩してきました。診断面では心エコーに加えて様々な画像診断が急速に臨床応用されています。また治療面では多くのエビデンスに支えられた薬物療法に加え、CRT（心臓再同期療法）や小型LVASのような植え込み型deviceも実用化しています。さらに臓器移植法案改正の実現により日本における心移植治療は新しい時代に入ろうとしています。とはいえ、まだまだ未解決の問題も多く、臨床的諸問題の解決をはかることは学会にとって重要な社会的使命です。

現在企画中のプログラム案の主なところは以下の通りです。

学術プログラム（予定）

1. 心不全における不整脈治療
2. 心不全に期待される新薬
3. 心不全における心臓細胞死
4. 弁膜症への新しいアプローチ
5. 心筋再生の現状と展望
6. 心不全診療における画像診断
7. 心不全の発症機序と新しい治療標的
8. 多職種で支える心不全ケア
9. 心不全ケアの連続性
10. 心不全のデバイス治療
11. 会長講演
12. 教育講演
13. YIA（基礎、臨床）
14. 症例カンファランス
15. 一般演題（口述、ポスター）

特別講演（予定）

Angelo Auricchio (University Hospital Magdeburg, Germany)
Georg Ertl (University of Wurzburg, Germany)
Mihai Gheorghiade (Northwestern University, USA)
Paul J. Hauptman (Saint Louis University, USA)
Tiny Jaarmsa (University Medical Center Groningen, Netherland)
Tomas F. Luscher (University Hospital Zurich, Switzerland)
佐渡島純一 (New Jersey Medical School, USA)

合同開催

1. ICD/CRT合同研修セミナー
2. 第29回日本心臓移植研究会（10月9日）
3. 市民公開講座（10月10日）

今回新たに、心不全診療を支えるコメディカルの人たちのためのシンポジウムや教育講演を企画したいと思います。さらに学術集会と連動して市民公開講座を企画しています。学会で得られた成果を少しでも社会や患者さんに還元していきたいと思います。場所は東京医科歯科大学（御茶ノ水）を予定しています。また本学会と並列して開催される第29回日本心臓移植研究会（10月9日、京王プラザホテル）とも密接に連携することで会の充実を図りたいと思います。

当教室員一丸となって準備に臨んでおりますが、多々至らない点がございます。何とぞよろしくご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。多くの方々にご参加いただきますことを期待しております。

学会案内

循環器病学における新たなパラダイム創造にむけて
― 第74回日本循環器学会・学術集会 ―

第74回日本循環器学会・学術集会
会長　北　徹
(神戸市立医療センター中央市民病院　院長)

「知の集約による真理の探求－基礎と臨床の融合－」

昭和11年に日本循環器病学会が発足、第一回総会講演会が300名余を集め、京都で行われました。それに先立つ昭和10年には『日本循環器病学』誌が創刊されています。現在の日本循環器学会は正会員数24275人(2009年12月16日現在）を擁する国内最大規模の学会のひとつに成長いたしました。第74回日本循環器学会総会・学術集会（JCS2010）を、2010年（平成22年）３月５日から３日間、学会発祥の地、京都で開催いたします。伝統ある本学会の会長を務めさせて頂きますことを、大変光栄に存じますとともに、その責任に身の引き締まる思いでございます。学術集会では、過去最高の総数4118題の応募演題をいただき、一般演題2340題を採択させて頂きました(Featured Research Session:120題、英語口述：360題、日本語口述：354題、英語ポスター：719題、日本語ポスター：787題、採択率56.8%)。

学会のメインテーマとして「知の集約による真理の探求－基礎と臨床の融合－」を掲げます。循環器領域における基礎研究および臨床研究はめざましい発展を遂げましたが、今まさにその融合が希求されています。①疾患発症機構の解明と診断・治療法開発のための基礎研究、②基礎研究の成果を臨床現場にいかすためのトランスレーショナル・リサーチ、③臨床現場におけるエビデンスの蓄積と新たな問題点の抽出、を有機的に結びつけるため、本会を双方向の情報発信の場とし、循環器病診療と研究における新しいパラダイムを創出する機会にできればと思っています。本学術集会で最も重きが置かれている美甘記念講演にはトロンビン受容体を発見されたProf. Shaun R. Coughlin（UCSF）を、真下記念講演には、iPS細胞を確立された山中伸弥博士（京都大学）をお招きいたします。特別講演では、Prof. Steven E. Nissen、Prof. Adnan Kastrati、Prof. Barry J. Maron、Prof. Arthur J. Moss、Prof. Peter J. Schwartz、Prof. David A. Kass、Prof. Eric N. Olson、Prof. Charles E. Murry、Prof. Deepak Srivastava、Prof. Ulrich Sigwart、Prof. Christopher Glass、Prof. Alan Tallという各分野で世界を代表する12名の先生からご講演頂く予定です。海外の主要循環器学会とのジョイントシンポジウム（AHA（米国)-JCS、ACC（米国)-JCS、ESC（欧州)-JCS、APSC（アジア太平洋)-JCS)、さらに５つのプレナリーセッション、24のシンポジウム、５つのラウンドテーブルディスカッション、15のトピックにおいても国内外の第一人者のご講演が予定されており、お招きした海外招請者は総計88名にのぼっています。また、３つのコントロバーシー、７つのミート・ザ・エキスパート、31のモーニングレクチャーでは、国内の専門家からご講演頂きます。その他、今回は３日間にわたりLate Breaking Clinical Trials Sessionを設け、日本発の大規模臨床研究発表をじっくり聞いて頂けると思っています。循環器教育セッションでは、ビデオライブの４セッション（心臓血管外科、不整脈電気生理、PCI、末梢血管インターベンション)をはじめ、睡眠時無呼吸症候群、炎症と循環器疾患に関するセッションが企画されています。

会長特別企画といたしましては、初の試みとして半日をかけて５つのテーマ（「iPS細胞の臨床応用とその課題」、「家族性心疾患:Bench to bedside, bedside to bench」、「PCIとCABGの境界を如何に規定するか」、「抗血小板療法の現況と展望」、「生物統計の基礎から臨床研究の企画まで」）を徹底的に議論する『フォーカスセッション』、海外招請者と国内若手医師・研究者がじっくり交流する場としての『Laboratories Run』を用意させて頂きました。さらに『メディカル・コメディカルジョイントシンポジウム』を設け、コメディカルとメディカルの新たな役割分担構築の可能性を模索します。会長講演は『動脈硬化研究の歩み』と題し、私自身の研究生活における出会いを振り返りつつ、お話させて頂きたいと考えています。

現場医療を支えるコメディカルスタッフを対象にしたコメディカルセッションでも、過去最高の416題の一般演題（口述：12題、ポスター404題）が発表されます。今年はコメディカル研究のさらなる活性化を期待して、優秀賞を設定いたしました。市民公開講座は『自分でできる心筋梗塞、脳梗塞の予防！～専門家に聞く生活習慣病対策の秘訣～』をテーマに、一般市民を対象として、予防医学の重要性を訴えます。さらに、日野原重明先生

をお招きして、禁煙推進のための市民公開講座も行われます。

本学術集会は、循環器に関わる全ての方々にとって有意義で刺激的な場になること、循環器領域の国内外のトップランナーと次世代を担う若手が、自由に意見を交歓できる場となること、を目指して企画致しました。多くの皆様のご参加を心から願っております。早春の美しい京都でお会いできることを楽しみにしております。

心不全研究最前線(1)

第13回日本心不全学会YIA最優秀賞ー臨床系

The Early Introduction of Beta-blockers Prior to Relieved Decompensation Improves the Prognosis in Heart Failure Patients.

成毛　崇、猪又孝元、竹内一郎、竹端　均、柳澤智義、前川恵美、
水谷知泰、品川弥人、小板橋俊美、西井基継、和泉　徹
（北里大学医学部循環器内科学）

背　景：

β遮断薬（BB）は慢性心不全での標準的治療に位置づけられ、陰性変力・変時作用による心不全悪化の懸念から代償期での導入が推奨される。これまで急性心筋梗塞例へのBB早期導入の報告はわずかにある[1]が、心不全例に対しての非代償期BB早期導入の安全性と有効性についての報告はない。

研究の概略：

心不全急性増悪にて当科に入院しBBが初めて導入された連続78名を対象とした。Boston Heart Failure(HF)スコアを参考に、うっ血解除状態での導入群（C群）とうっ血非解除状態での導入群（D群）との2群に分け、後向き検討を行った。

来院時の患者背景に有意な差は認めなかった。BBの投与開始時期はC群の方が早く、入院期間もC群で短縮されていた。一方BBの投与量は、導入時はD群に多く投与されていたが、退院時では差は認めなかった(図1)。入院中のイベント回避率およびNYHA心機能分類は両群で同等に改善したが、退院後12カ月間ではNYHA心機能分類の推移は同様であったにも関わらず、イベント発生率はD群で有意に低値であった。

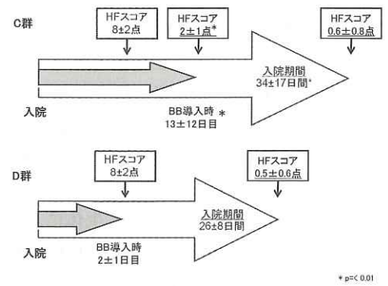


図1

考　察：

1．早期BB導入の安全性

D群でのBB導入時HFスコアと肺動脈楔入圧に注目し、BB導入に伴い死亡または心不全増悪を来たした例から推察するに、たとえHFスコアが高くとも血管内うっ血が解除できていればBBを低リスクで導入できるものと思われる。さらに、死亡例およびBB非導入症例での導入時フォレスター分類がサブセットⅣであったことより、低心拍出が解除できていればBBの導入は低リスクであることが示唆された。

2．早期BB導入が遠隔期に与えた影響

Fonarowらは、BB既投与の心不全患者での急性増悪時において、BB継続投与群が中止群と比べて予後が良好であったと報告した[2]。つまり、心不全増悪時のBBの有無が予後に影響を与えたわけで（図2）、本検討における心不全非寛解期からのBB導入は交感神経系の過刺激を、心不全悪化をもたらさない範囲で抑制できた機序を通じ、予後改善に寄与した可能性がある。

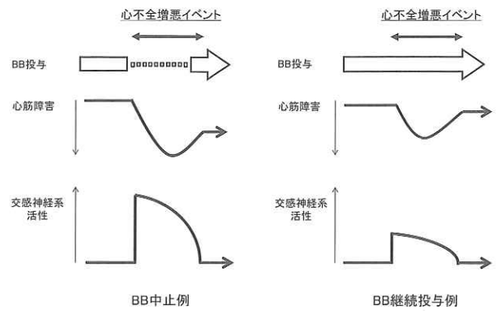


図2

(References)

1）Herlitz J, Waagstein F, Lindqvist J, *et al.* Effect of metoprolol on the prognosis for patients with suspected acute myocardial infarction and indirect signs of congestive heart failure (a subgroup analysis of the Göteborg Metoprolol Trial). *Am J Cardiol* 1997; 13: 40J-44J

2）Fonarow GC, Abraham WT, Albert NM, *et al.* Influence of beta-blocker continuation or withdrawal on outcomes in patients hospitalized with heart failure: findings from the OPTIMIZE-HF program *J Am Coll Cardiol* 2008; 15: 190-199.

心不全研究最前線(2)

第13回日本心不全学会YIA最優秀賞—基礎系

Agonist-independent activation of the angiotensin II type 1 receptor contributes to left ventricular remodeling *in vivo*.
アゴニスト非依存性のアンジオテンシンII受容体活性化による心室リモデリング促進作用

康田　典鷹、赤澤　宏、小室　一成
(千葉大学大学院医学研究院循環病態医科学)

〈背　景〉

アンジオテンシンII(AngII)1型受容体(AT_1)受容体は血圧や水・電解質の恒常性の維持に中心的な役割を果たすとともに、その活性化は心血管リモデリングの病態にも強く関与している。AT_1受容体はアゴニストであるAngIIとの結合やメカニカルストレスにより活性化するが[1]、培養細胞系ではAngIIが存在しない状態においても自律的な基礎活性を示すことが報告されている[2]。しかし、生体においてAngII非依存的なAT_1受容体の活性化が心血管リモデリングの病態にどのような役割を果たしているのかは明らかではない。

〈目的・方法〉

心臓におけるAngII非依存的なAT_1受容体活性化の意義を明らかにするために、アンジオテンシノーゲンノックアウト(AtgKO)マウス[3]に対して、心筋特異的に野生型AT_1受容体を過剰発現[4]させたマウス(AT_1Tg-AtgKOマウス)を作成し、解析を行った(図1)。

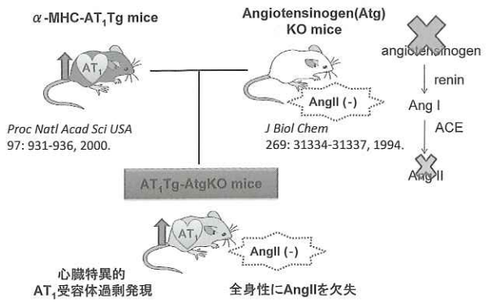


図1　AT_1Tg-AtgKOマウスの作成

〈結　果〉

AT_1Tg-AtgKOマウスは、AngIIが全身性に欠失しているにも関わらず、心エコー検査で9週齢以降徐々に進行する心室拡大と心機能低下を認めた。また、組織染色では週齢に伴い間質の線維化が亢進しており、real-time RT-PCRによる解析では胎生遺伝子とコラーゲン遺伝子の発現が上昇していた。さらにAT_1Tg-AtgKOマウスの心臓では、G蛋白質の$G_{\alpha q/11}$サブユニットの細胞質への再分布がAtgKOマウスと比べて有意に誘導されており、AngIIが存在しなくてもAT_1受容体が活性化されていることが示唆された。これらの結果から、心臓においてAT_1受容体の発現が亢進した状態では、AngII非依存性のAT_1受容体自律活性が心室リモデリングを著明に促進することが明らかとなった(図2)。

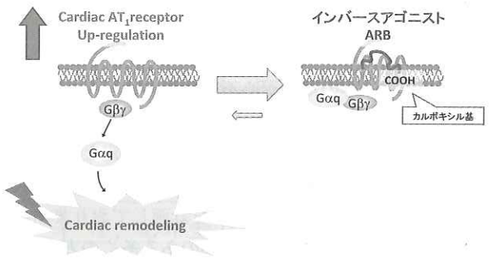
そして興味深いことに、インバースアゴニストであるカンデサルタンは、このAT_1Tg-AtgKOマウスの心室リモデリングの進展を抑制した。私たちはこれまでに、培養細胞系においてカンデサルタンのカルボキシル基がインバースアゴニスト活性に重要な役割を果たしており、カンデサルタンからカルボキシル基を欠失させた誘導体(CV-7H)はインバースアゴニスト活性が見られないことを報告している[5]。そこで、生体においてもカルボキシル基がインバースアゴニスト活性に重要な役割を果たしているかを検討した。カルボキシル基を欠失させたCV-7Hは、AngIIの持続注入により高血圧を誘導した野生型マウスにおいて、カンデサルタンの20倍濃度でカンデサルタンと同等の降圧効果を示した。しかし、CV-7Hはカンデサルタンの20倍濃度においてもAT_1Tg-AtgKOマウスの心室リモデリングの進展を抑制出来ず、CV-7Hにはインバースアゴニスト活性が見られなかった。これらの結果から、生体においてもカルボキシル基がインバースアゴニスト活性に重要な役割を果たしていること、そしてインバースアゴニスト活性をもつARBはAngII非依存性のAT_1受容体自律活性の亢進による心室リモデリングを抑制することが示された(図2)。

〈結　語〉

AT_1受容体のup-regulationにともなうアゴニスト非依存性の受容体活性化の増強は、心血管病の病態生理に強く関与している可能性が示唆された。また、インバースアゴニスト活性を有するARBは、これらの病態により有効に働くと考えられる。

〈今後の研究の方向性〉

AT_1受容体は、炎症性サイトカインやインスリン、LDLコレステロール、プロゲステロンなどにより発現が増加することが報告されており、様々な病態においてAT_1受容体のup-regulationが起きていると考えられる。しかし、AT_1受容体の発現制御の詳細なメカニズムについては未だ不明な点が多い。今後、AT_1受容体の発現制御と病態との関連性などについても研究を進めていきたいと考えている。



心臓においてAT_1受容体の発現が亢進した状態では、AngII非依存性のAT_1受容体自律活性が心室リモデリングを促進した。インバースアゴニスト活性をもつARBはAngII非依存性のAT_1受容体自律活性の亢進による心室リモデリングを抑制した。

図2

〈reference〉

1) Zou Y, Akazawa H, Qin Y, *et al* : Mechanical stress activates angiotensin II type 1 receptor without the involvement of angiotensin II. *Nature Cell Boil*, 6: 499-506, 2004.
2) Costa T, Herz A : Antagonists with negative intrinsic activity at delta opioid receptors coupled to GTP-binding proteins. *Proc Natl Acad Sci USA*, 86: 7321-7325, 1989.
3) Tanimoto K, Sugiyama F, Goto Y, *et al* : Angiotensinogen-deficient mice with hypotension. *J Biol Chem*, 269: 31334-31337, 1994.
4) Paradis P, Dali-Youcef N, Paradis FW, *et al* : Overexpression of angiotensin II type I receptor in cardiomyocytes induces cardiac hypertrophy and remodeling. *Proc Natl Acad Sci USA*, 97: 931-936, 2000.
5) Yasuda N, Miura S, Akazawa H, *et al* : Conformational switch of angiotensin II type 1 receptor underlying mechanical stress-induced activation. *EMBO Rep*, 9: 179-186, 2008.

第１回日本心不全学会　看護小委員会企画教育セミナーの案内

日本心不全学会看護小委員会広報・教育WG
池亀　俊美

日本心不全学会看護小委員会設立

2009年10月、本学会に看護小委員会が設立されました。看護小委員会では、日本の心不全看護の実践・研究の質の向上を目指し、積極的な活動を進めてまいりたいと考えております。

〈活動内容〉

1．看護職の学術集会への参加の促進とネットワークづくり
2．教育セミナーの実施
3．心不全患者の療養生活を支える情報の発信、患者教育教材の開発
4．学術研究の推進
5．一般市民に対する啓発活動

看護小委員会企画教育セミナー開催

看護小委員会の活動の一環として、教育セミナーを定期的に実施することを計画しております。

その第一歩として、「基礎から学ぼう心不全看護」を企画いたしました。今回のセミナーの主旨は、心不全の病態生理・治療、疫学、看護についての学びから、心不全患者への支援の実践に活かしていただくことです。ご多忙の中、講師の先生方には、本教育セミナーの主旨にご理解をいただき、ご協力していただくことになりました。心より感謝申し上げます。また教育セミナーの会場は、本学会会員の先生方のご支援・ご協力のもと、確保することができました。

対象は心不全看護に関心のある看護職ですが、コメディカルスタッフ、学生も歓迎します。

東京会場は昨年12月より申し込み受付を開始しましたが、１月20日現在260名を越える応募をいただき、申し込みを締め切らせていただきました。予想以上の反響は、本セミナーへの期待、心不全看護のニーズの大きさの現われといえます。

開催地域の拡大を視野に入れ、今後の予定として、会員のニーズを把握しながら、第１回目とほぼ同様の内容で、札幌（６月）、大阪（９月）を計画しております。

この機会に、心不全医療に関心のある多くの方のご参加をお待ちしております。

これからも、会員の先生方のご支援のもと、教育セミナーをはじめ、看護小委員会活動を積極的に進めてまいりたいと考えております。ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

日本心不全学会看護小委員会企画教育セミナー
「基礎から学ぼう心不全看護」

～心不全の病態生理・治療、疫学、看護について、学びから心不全患者への支援方法の実践へ～

1）開催場所：東京（3月20日／申し込みを締め切りました）、札幌（6月12日）、大阪（9月12日）
2）開催時期・参加受付方法：学会HPにて随時ご案内させていただきます。
3）対　　象：心不全看護に関心のある看護職（コメディカルスタッフ・学生も歓迎します）
4）主　　催：日本心不全学会看護小委員会
5）参 加 費　会員：3,000円／非会員：6,000円

プログラム

1．心不全の病態生理
2．心不全の最新治療：看護師に理解してほしい心不全の薬物療法
　東京：猪又孝元先生（北里大学循環器内科学）
　札幌：筒井裕之先生（北海道大学大学院循環器病態内科学）
　大阪：斎藤能彦先生（奈良県立医科大学第一内科）
3．慢性心不全の患者の在宅支援
　日村好宏先生（彦根市立病院循環器科）
4．日本における心不全患者の特徴と課題
　眞茅みゆき先生（北海道大学大学院循環病態内科学）
5．慢性心不全患者の心理的支援
　竹原歩先生（兵庫県立姫路循環器病センター看護部）
6．慢性心不全患者のセルフケア
　加藤尚子先生（東京大学成人看護学）
7．慢性心不全患者の支援の実際
　池亀俊美先生（聖路加国際病院看護管理室）

学会カレンダー(2010年)

開催日(2010年)	学会名	会長	所属	会場
2月5日	**第39回日本心脈管作動物質学会**	伊藤　正明	三重大学	愛知県産業労働センター
2月15日～17日	**第40回日本心臓血管外科学会学術総会**	大北　裕	神戸大学	神戸国際会議場　他
2月26日～27日	**第35回日本微小循環学会総会**	棚橋　紀夫	埼玉医科大学国際医療センター	大宮ソニックシティ
3月5日～7日	**第74回日本循環器学会総会・学術集会**	北　徹	神戸市立医療センター中央市民病院	国立京都国際会館　他
3月18日～19日	**第9回日本再生医療学会総会**	越智　光夫	広島大学	広島国際会議場
4月8日～10日	**第110回日本外科学会定期学術集会**	中尾　昭公	名古屋大学	名古屋国際会議場
4月8日～11日	**第69回日本医学放射線学会総会**	杉村　和朗	神戸大学	パシフィコ横浜
4月9日～11日	**第107回日本内科学会総会・講演会**	小林　祥泰	島根大学	東京国際フォーラム
4月23日～25日	**第50回日本呼吸器学会学術講演会**	久保　惠嗣	信州大学	国立京都国際会館
5月19日～21日	**第87回日本生理学会大会**	佐々木和彦	岩手医科大学	盛岡市民文化ホール　他
5月27日～29日	**第53回日本糖尿病学会年次学術集会**	加来　浩平	川崎医科大学	ホテルグランヴィア岡山　他
5月28日～29日	**第31回日本循環制御医学会総会**	杉町　勝	国立循環器病センター研究所	千里ライフサイエンスセンター
5月29日～31日	**第83回日本超音波医学会学術集会**	工藤　正俊	近畿大学	国立京都国際会館
6月11日～12日	**第25回日本不整脈学会学術大会**	磯部　文隆	愛知医科大学	名古屋国際会議場
6月24日～26日	**第52回日本老年医学会学術集会**	横野　浩一	神戸大学	神戸国際会議場　他
6月25日～26日	**第20回日本心臓核医学会総会・学術集会**	汲田伸一郎	日本医科大学	東京コンファレンス
6月25日～27日	**第49回日本生体医工学会大会**	千田　彰一	香川大学	大阪国際交流センター
7月6日～9日	**第46回日本小児循環器学会総会・学術集会**	丹羽公一郎	千葉県循環器病センター	シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル
7月15日～16日	**第42回 日本動脈硬化学会総会・学術集会**	横山　信治	名古屋市立大学	長良川国際会議場
7月17日～18日	**第16回日本心臓リハビリテーション学会学術集会**	鄭　忠和	鹿児島大学	かごしま県民交流センター
7月23日～24日	**第16回日本血管内治療学会総会**	根来　真	藤田保健衛生大学	名古屋国際会議場

9月17日～19日	**第58回日本心臓病学会学術集会**	永井　良三	東京大学	東京国際フォーラム
10月2日	**第24回日本心臓血管内視鏡学会**	平山　篤志	日本大学	日大会館　他
10月8日～9日	**第27回日本心電学会学術集会**	犀川　哲典	大分大学	iichiko総合文化センター　他
10月15日～17日	**第33回日本高血圧学会総会**	今泉　勉	久留米大学	福岡国際会議場
10月24日～27日	**第63回日本胸部外科学会定期学術集会**	佐野　俊二	岡山大学	大阪国際会議場
11月18日～20日	**第48回日本人工臓器学会大会**	山家　智之	東北大学	仙台国際センター

日本心不全学会入会のご案内

本学会は、心不全ならびにこれらに関連する分野の研究発表の場を提供し、知識や情報交換を行うことによって心不全に関する研究を推進し、わが国における医学の発展に寄与することを目的としております。平成8年に設立され、今年で13年目が経過いたしました。本会の更なる充実に向け、会員の増強を行っております。

ご入会を希望される方がおりましたら、是非ご紹介くださいますようお願いいたします。

▶ 会員の特典

1. 日本心不全学会と米国心不全学会の共通の機関誌「Journal of Cardiac Failure」が配布されます。
2. ニュースレターが年4回配布されます。
   ※正会員Bは、ニュースレターのみとなります。

▶ 入会・登録内容の変更

1. 入会手続き
   本会ホームページhttp://www.jhfs.gr.jp/より「入会申込フォームはこちらより」をクリックしていただき、ご入力ください。
   年会費は正会員A 10,000円・正会員B 3,000円（医師以外）になります。会費の送金方法につきしては、入会登録後から、14日以内に請求書を発行しますので、最寄りの郵便局よりお振り込みください。
2. 住所変更手続き
   本会ホームページhttp://www.jhfs.gr.jp/より「住所変更フォームはこちらより」をクリックしていただき、ご入力ください。
   パスワードをお忘れの方は、ログイン画面下方にございます「パスワードを忘れの方はこちら」をクリックしていただき、ご入力ください。

日本心不全学会 News Letter Vol.13, No.4

2010年1月10日発行

編集・発行●日本心不全学会
〒112-0012　東京都文京区大塚5-3-13　小石川アーバン4F
一般社団法人　学会支援機構内
TEL：03-5981-6011
E-mail：shinfuzen@asas.or.jp

製作●一般社団法人　学会支援機構
〒112-0012　東京都文京区大塚5-3-13　小石川アーバン4F

Copyright © 2008, by Japanese Heart Failure Society　　Printed in Japan

印刷・製本：株式会社クイックス東京